

# PAM通信 コラム

2008年1月発行

## <第10回>タイトル：M君の話（その4：理想の社会とは？）

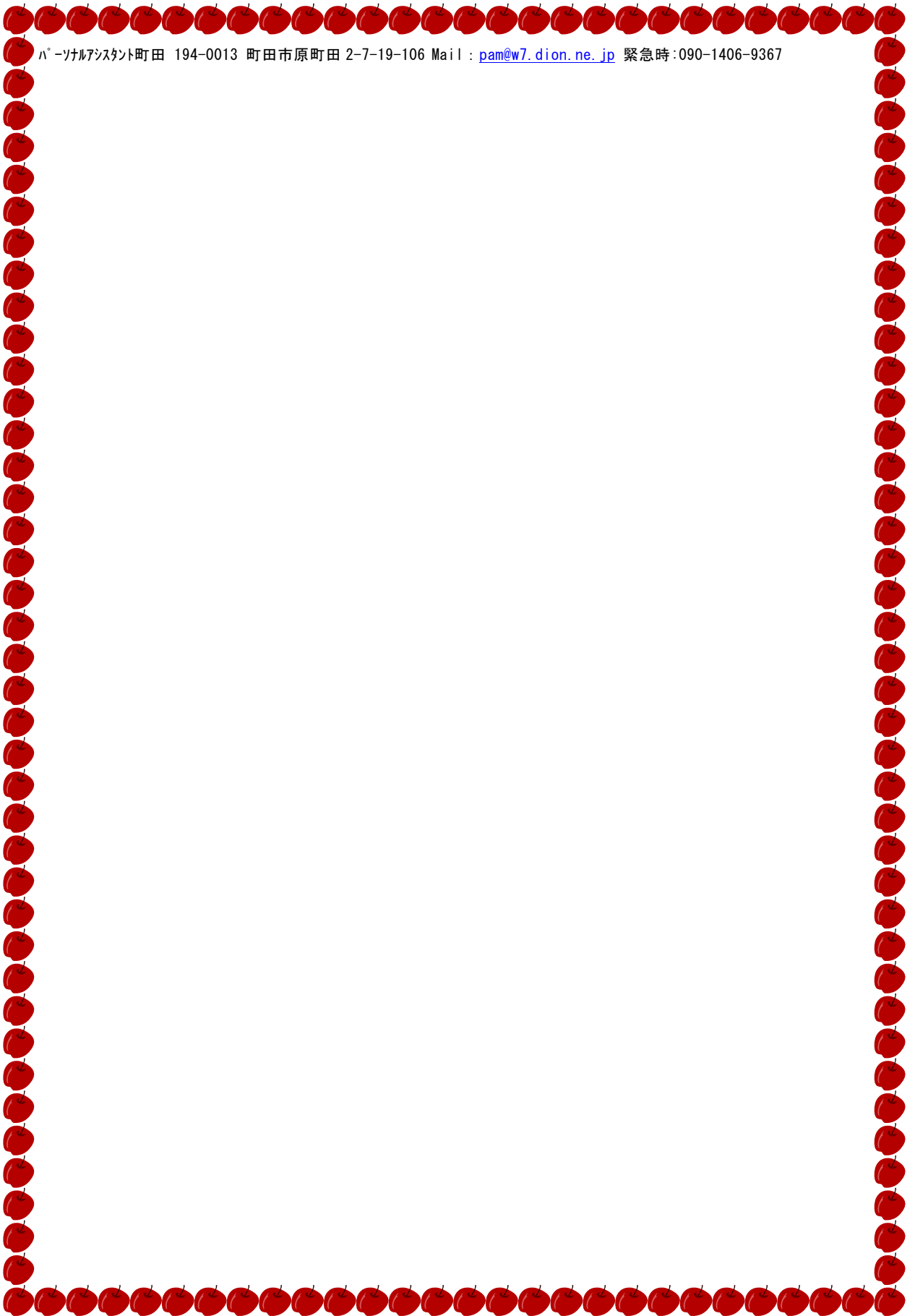
M君の話も今回が最終回です。これまで3回M君に登場してもらい、いろいろと考えてみましたが、最後はM君を含めた誰もが幸せを感じられる社会について考えてみたいと思います。

M君のように優しいけれど弱い人が幸せを感じられる社会とはどんな社会（以下は理想の社会）でしょうか？私は多様性が最大限に許容される社会だと思います。それは強靱な肉体の人も虚弱体質の人も、頭脳明晰の人も天然ボケの人も、人付き合いが得意な人も苦手な人も、ありのままで生きることができる社会です。社会に多様性が必要な理由は前々回のコラムで考えました。多様な個性が生き残れるシステムについては前回のコラムで考えました。しかし、現実には弱者は生きづらい社会が存在しています。では、どうすれば理想の社会が実現するのでしょうか？

人は生物としての社会システムだけでなく、自ら創りあげた文化による社会システムを持っています。政治もその1つです。資源を分かち合いルール違反を取り締まる政治システムを上手く働かせることが、理想の社会を実現するための最も強力な手段だろうと私は思います。しかし、それが現存する今もそんな社会は実現していません。システムは時代や社会の情勢に合わせてその構造を改変する必要があること、そしてそれを上手く働かせるには搾取者への対処や自分が搾取者へならないようにするための対処などの絶え間ない労力が必要になることに理由があるのだと思います。つまり、政治システムがあるだけでは求めるべき社会は実現できないということです。言い方を変えると、理想の社会という完成形は存在せず、それを求め続ける態度と行動が常態化した社会が理想の社会だということです。私はこの状態を「成熟した社会」と呼びたいと思っています。

では、私たちは誰もが幸せを感じられる社会の実現に何ができ何をしたら良いのでしょうか？障害を持つ人たちは自分のハンディーを補う社会サービスを自信を持って受けること、介助者は介助という仕事に誇りを持つことだと思います。そのことで理想の社会を作る担い手であることを自覚し、自分たちに関係する社会システムの改善に努力することだと思います。これらの努力を実践する場を提供する会社であることがPAMの存在意義の一つだと私は思っています。

M君の話の最終回は、これまでの回とは少し違い私の願望が強く含まれた話になってしまいました。M君の話を読んであなたはどう思われましたか？ご意見を聞かせて頂ければと思います。



ハローソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : [pam@w7.dion.ne.jp](mailto:pam@w7.dion.ne.jp) 緊急時 : 090-1406-9367